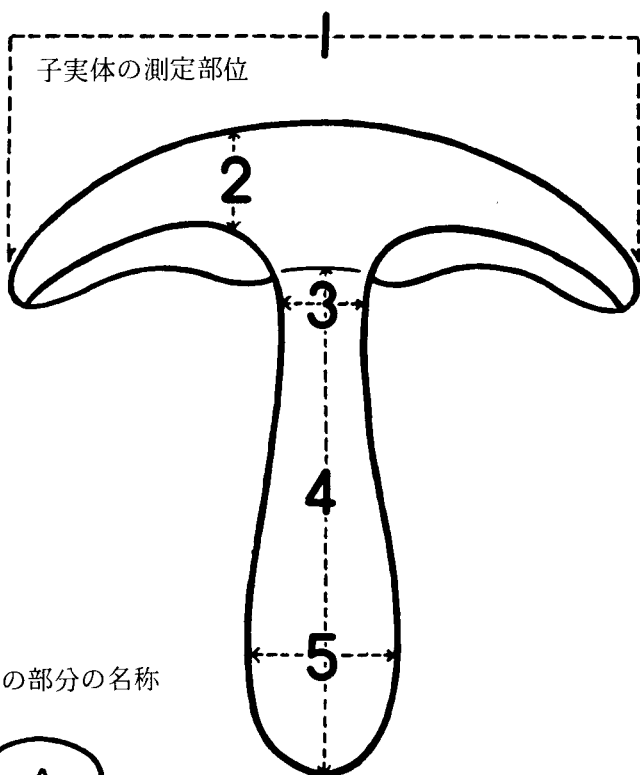
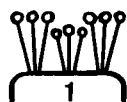
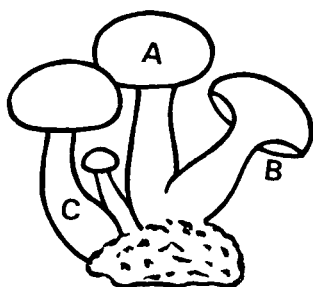


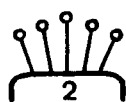
子実体の部分の名称と測定部位



子実体の部分の名称



群 状 型



散 状 型



株 状 型

A 菌 傘

B 菌 褶

C 菌 柄

1 菌傘の直径

2 菌肉の厚さ

3 菌傘下の菌柄の直径

4 菌柄の長さ

5 菌柄の最大直径

審 査 基 準

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
嫌 触 反 応											
寒天培地による対峙培養											①供試培地は、PDAとする。②シャーレ（内径9cm、高さ2cm）に常法により滅菌した供試培地を分注する。③この供試培地の平面の中央部付近に、別に供試培地で15～20日間、20～25℃で前培養した2核菌系の小片（5mm程度）を3cm間隔に対峙させるように接種し、20～25℃で培養する。④両菌叢が接触したら、シャーレを照度300Lux以上の自然光下におき、20～25℃にたもち、帯線形成の有無などを判定する。
帯線形状	+								—	帯線の形成されたものは+、形成されないものは—、とする。	
生 理 的 特 性											
菌系の生長に関する温度特性											①供試培地は、PDAとする。②シャーレ（内径9cm、高さ2cm）またはライアンのグロースチューブ（1区5～7枚または本）に供試培地を分注し、常法により滅菌する。③この培地に、別に供試培地で15～20日間、20～25℃で培養した菌叢からとった2核菌系の小片（5mm程度）をシャーレまたはグロースチューブの一端に接種し、最適温度で培養する。④菌叢の直径が10mm（接種片を含む）程度に達したら、シャーレまたはグロースチューブを所定の温度に移し、1～2日後測定を開始する。
寒天培地上の最適生長温度	22℃	23℃	24℃	25℃	26℃	27℃	28℃	29℃	30℃		
生長速度		mm/5℃	mm/10℃	mm/15℃	mm/20℃	mm/25℃	mm/30℃	mm/35℃		15日間の平均値を算定する。	
高温に対する耐性											とくに特徴のある場合に限る。
低温に対する耐性											とくに特徴のある場合に限る。

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
密 度			粗		普 通		密				標準品種と対比する。
気中菌糸の発達程度			少ない		普 通		多 い				標準品種と対比する。
栽 培 的 特 性											
											鋸屑培地による瓶（ビン）栽培 ①供試容器は、ポリプロピレン（PP）培養瓶（丸型、容量 800 cc、口径 50 mm）を使用する。②供試培地は、風乾した鋸屑（ブナとスギ等容混合）3：米糠 1（容積比）、含水率 60～65%（標準）とする。③供試種菌は、鋸屑種菌を使用する。④供試培地は、高圧殺菌したのち、供試種菌を接種し、20～25℃で 30～40 日間培養する。種菌の接種量は約 20 cc。⑤熟成・菌かきについては、それぞれ最適条件下で行なう。⑥照度は 300～500 Lux とする。
種菌接種から子実体発生までの期間											
種菌接種から菌かきまでの培養期間	40 日以下	50 日	60 日	70 日	80 日	90 日	100 日	110 日以上			
菌かき後の最適温度における子実体収穫までの期間			19 日以下		20～25 日		26 日以上				
芽出し最適温度		10℃以下	11～14℃	15～18℃	19～22℃	23～26℃	27℃以上				
子実体の生長											
最適温度		8℃以下	9～11℃	12～14℃	15～17℃	18～20℃	21℃以上				

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
最適照度											とくに特徴のある場合に限る。
子実体の発生型											
発生時期			早 生		中 生		晩 生				
発生型			群状型		散状型		株状型			測定部位は「参考図」参照。	
収 量		80 g 以下		81 ~ 100 g		101 ~ 120 g		121 g 以上		生重量を計量し、1 瓶(ビン)当たりの平 均値を算定する。	鋸屑培地による瓶(ビン)栽培 ①供試瓶(ビン)数は、1ブロック25 本とし、3回実施する。②収穫時期は、 株の中心部の子実体の傘が10分程度に 開いたときとする。③生重量は、子実 体の株の基部に付着する培地を除去し たのちに計量する。
有効茎本数		20 本 以下	21 ~ 25 本	26 ~ 30 本	31 ~ 35 本	36 ~ 40 本	41 本 以上			有効茎数は、茎の長 さ20mm以上のものと する。	
培地適応性			原 木		鋸 屑		その他				
培地材料に対する選択性											
樹種選択性			広葉樹		針葉樹		混 合				
その他の培地材料に対する 選択性			わ ら		もみがら		その他				
形 態 的 特 性											
										傘の直径の大きいも のから10本を選び、 測定する。	鋸屑培地による瓶(ビン)栽培 ①収穫時期は、株の中心部の子実体の

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
										①	傘が10分程度開いたときとする。②形態的特徴が混在してあらわれる場合は、その比率を測定する。
菌 傘											
形 態											
大 き さ			小		中		大			傘の直径36mm以上を大、26～35mmを中、25mm以下を小とする。測定部位は「参考図」参照。	
断 面		凸 形		丸山形		平 形		凹 形			
色											
中央部	白 色	灰黄色	浅灰茶色	黄茶色	灰茶色	暗黄褐色	暗灰黄色	暗灰褐色	その他		
周縁部	白 色	灰黄色	浅灰茶色	黄茶色	灰茶色	暗黄褐色	暗灰黄色	暗灰褐色	その他		
肉											
厚 さ			薄 い		普 通		厚 い			傘の厚さ9mm以上を厚い、6～8mmを普通、5mm以下を薄いとする。測定部位は「参考図」参照。	
肉 質			軟かい		普 通		硬 い				

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
斑 紋											
多 少	少ない								多 い		標準品種と対比する。
大 小	小さい								大きい		標準品種と対比する。
分布の状態	中央部分								周縁を除いた部分		標準品種と対比する。
明瞭度			不明瞭		普 通		明 瞭				標準品種と対比する。
亀裂の有無	な い								あ る		斑紋にそって亀裂があるか否かを判定する。
歯 摺											
形											とくに特徴のある場合に限る。
色	白 色		黄白色		淡橙黄色		灰黄色		その他		
並び方			正 常		波 状 ちぢれ		その他				
巾			せまい		普 通		広 い				標準品種と対比する。
密 度			粗		普 通		密				標準品種と対比する。
歯 柄											
長 さ			短かい		普 通		長 い			短かいは45mm以下、普通は46～55mm、長いのは56mm以上とする。	

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
										測定部位は「参考図」参照。	
菌傘へのつき方										中心生、偏心生に区分する。	
形										細長、細短、太長、太短、中太に区分する。	
色	白 色								有 色		
毛	な い								あ る		
多 少			少ない		普 通		多 い				標準品種と対比する。
菌傘下径と最大径との比率			1.5 以下		1.6 ～ 1.8		1.9 以上			測定部位は「参考図」参照。	最大径／傘下径。
菌傘の直径と菌柄の長さとの比率			1.4 以下		1.5 ～ 2.0		2.1 以上				
肉 質			軟かい		普 通		硬 い				標準品種と対比する。
その他の形態											
含 有 成 分											
子実体の特殊成分含有量											科学技術庁資源調査会編「四訂日本食品標準成分表」（昭和57年版）所載の成分量以上のものに限り検討する。